

第五回 国土のモニタリング研究会議事概要

1. 日時 平成 15 年 3 月 26 日（水）14:30～16:30
2. 場所 3 号館 4 階特別会議室
3. 出席委員 森地座長、石田委員、城所委員、佐藤委員、瀬古委員、恒川委員
4. 議題

- (1) 国土のモニタリングの実施と分析について
- (2) 国土のモニタリング計画の検討について
- (3) 国土のモニタリングデータ提供システムのあり方について

5. 主な意見

(1)国土のモニタリングの実施と分析について

①人口・機能の集中・分散の動向

- ・ 人口については、全国、都道府県間移動、ブロックにおける中枢・中核都市への集中、県内過疎地域など、それぞれ課題が違うかもしれないので、視点をいくつかに分類し、それごとにデータを用意すると良い。

②ライフスタイルの動向

- ・ 新しい国土計画を考える際に、持続的な発展が可能となるような地域の潜在的能力の醸成が重要。潜在的能力に地域間格差があるとすれば、それを埋めていく必要がある。そのような視点から、地方の財政能力・公共投資依存度など財政面の指標、雇用・障害者の活動など地域社会政策面の指標、さらには文化政策的な指標があるとよい。
- ・ これからの国土を考える際には、高齢化以上に少子化が重要。例えば、シングル比率の増加は地域によって違うと思う。

③圏域形成の動向

- ・ 圏域については、どれくらいの人口規模があればサービスができるのかということが問題。大都市にあって 20～30 万都市にない魅力は何か、主として民が行ってきた部分への分析が必要。

(2)国土のモニタリング計画の検討

- ・ 現行 GD のフォローアップ、新たな国土計画への課題の発掘、それを解決する政策のモニタリングというように「分析」と「総合化」を繰り返しながら進めていくとよい。
- ・ 重要な指標については、分析にとどまらず、計画の数値目標として用いていくべき。
- ・ 「恵み豊かな自然の享受と継承」では、島国として、海と接している部分に関する分析が必要。海辺の開放が進んでいる状況を追ってみてはどうか。
- ・ 地域の国際競争力の状況の分析も大切。

(3)国土のモニタリングデータシステムのあり方の検討、研究会報告骨子（案）

- ・ データを提供する相手のニーズは、専門家と素人で違うはず。専門家向けには、分析をしたものより生データの提供が役に立つ。
- ・ モニタリングについては、バックデータの整備の観点では現在のやり方でよいが、モニタリングの指標は国民参加型で策定していくという視点も必要。
- ・ 国土計画局で全て対応するのではなく、他機関分については、リンクを貼ったり、図面を追加したりというように、適正に管理しながら全体が増殖していけるようにすべき。
- ・ 統計の世界ではデータの誤り・修正が必ず起こる。利用者からみると、更新情報などデータ管理が気になる。
- ・ 成果提供システムでは、外国の人もアクセスできるように、少なくとも標題は英語表記をつけたほうがよい。